

評価結果概要表

【評価実施概要】

事業所名	グループホームあかしあ		
所在地	山口県岩国市今津町1丁目10-9		
電話番号	0827-30-0802	事業所番号	3570801005
法人名	有限会社 サンメディカル		

訪問調査日	平成 22 年 2 月 22 日	評価確定日	平成 22 年 4 月 12 日
評価機関の 名称及び所在地	特定非営利活動法人やまぐち介護サービス評価調査ネットワーク 山口県山口市吉敷下東3丁目1番1号 山口県総合保健会館内		

【情報提供票より】

(1) 組織概要

開設年月日	平成 18 年 3 月 1 日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員計	18 人
職員数	16 人	常勤 9 人 非常勤 7 人 (常勤換算 15.4 人)	

(2) 建物概要

建物構造	鉄筋コンクリート 造り		
	4 階建ての	2 ~ 3 階部分	

(3) 利用料等 (介護保険自己負担分を除く)

家賃	月額 39,000 ~ 46,500 円	敷金	無	円
保証金	無	円	償却の有無	無
食費	朝食	300 円	昼食	480 円
	夕食	500 円	おやつ	100 円
その他の費用	月額 19,500 円 (30日)			
	内訳 光熱水費 19,500円			

(4) 利用者の概要 (2月22日現在)

利用者数	18 名	男性 2 名	女性 16 名	
	要介護 1	4	要介護 4	2
	要介護 2	8	要介護 5	1
	要介護 3	3	要支援 2	
年齢	平均 84.2 歳	最低 75 歳	最高 99 歳	

(5) 協力医療機関

協力医療 機関名	医科 医療法人まりふ会、森脇神経内科 歯科
-------------	--------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

(優れている点)

家族の訪問が多く、家族と職員の交流が充実し、利用者職員の間には心と関係が築かれています。また、職員同士のチームワークも良く職員間の連携を図って、利用者のケアに取り組まれています。三食とも事業所で調理され、1日30品目を目指し、栄養や塩分、カロリーなど考慮した献立を作り、一人ひとりの状態に応じた形態や好みに合わせた食事を提供されています。お祝い行事にはバイキングを採り入れて食事が楽しめるよう支援されています。

(特徴的な取組等)

音楽療法士による療法を月2回(土曜日)実施されています。利用者一人ひとりの目標を作成し、モニタリングや達成状況、職員の意見、解決すべき課題と対策、先生からの助言と感想等、きめ細やかに支援され、利用者の脳活性化やリハビリ効果を計っておられ、利用者の大きな楽しみになっています。看護師が週1~2回健康管理や医療相談で訪問し、一人ひとりの状況の医療連携が図られており、利用者や家族、職員の安心につながっています。

【重点項目への取組状況】

(前回の評価結果に対するその後の取組状況)

第三者委員の選任や、職員の研修など、できることから改善に取り組んでおられます。

(今回の自己評価の取組状況)

管理者や職員は評価の意義を理解され、各ユニットごとに自己評価書を基に各職員に対し面談を行い、面談結果を集計され、ユニットごとにカンファレンスをするなど、全職員で取り組まれています。

(運営推進会議の取組状況)

連合自治会長、自治会長、民生委員、家族、地域包括支援センター職員、施設主任、管理者、ユニットリーダー等のメンバーで、定期的開催され、利用者の状況や行事報告をし、意見交換をされています。避難訓練を地域の人と一緒に取り組むなど、意見をサービスに活かされています。

(家族との連携状況)

利用者一人ひとりの事業所での暮らしぶりを写真入りの事業所だよりにして、預かり金の明細や担当者のコメントを添えて毎月送付されています。電話や面会時に伝えたり、意見や要望を聞いたりしておられます。運営推進会議の場でも意見を聞かれています。年1回家族会を開催され、連携を図られています。

(地域との連携状況)

敬老会、福祉ふれあい祭り、夏祭り等に参加されています。地域向け事業所だよりの回覧や、ホームヘルパー2級の資格のあるボランティアが来訪し、行事のときに車イスを押したり、髪を乾かすなどの支援や、歌や踊り、朗読などのボランティアとの交流をされています。散歩や買い物などで近隣の人と会話するなど交流に努められています。

評価結果

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<p>理念に基づく運営 1. 理念の共有</p>			
1 (1)	<p>地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている。</p>	<p>「ご家族様や地域の皆様との交流、情報提供、各種相談等を重視し、地域と一体になったケアを積極的に担います。」という法人の理念を事業所の理念としている。</p>	<p>・事業所独自の理念の作成</p>
2 (2)	<p>理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる。</p>	<p>会議や勉強会等で理念を共有し、理念の実践に向けて取り組んでいる。</p>	
<p>2. 地域との支えあい</p>			
3 (7)	<p>地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。</p>	<p>自治会に入会し、敬老会、福祉ふれあい祭り、夏祭り等に参加している。地域向け事業所だよりの回覧や、ホームヘルパー2級の資格のあるボランティアが来訪し、行事の時に車イスを押ししたり、利用者の髪を乾かすなどの支援や、歌や踊り、朗読などのボランティアとの交流もある。散歩や買い物などで近隣の人と会話するなど、交流に努めている。</p>	
<p>3. 理念を実践するための制度の理解と活用</p>			
4 (9)	<p>評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。</p>	<p>管理者、職員は評価の意義を理解し、全職員で自己評価に取り組んでいる。外部評価結果については、第三者委員の選任や職員の研修など出来るところから改善に取り組んでいる。</p>	
5 (10)	<p>運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービスに活かしている。</p>	<p>連合自治会長、自治会長、民生委員、家族、地域包括支援センター職員、主任、管理者、ユニットリーダー等のメンバーで、定期的開催し、利用者の状況や行事報告をし意見交換をしている。避難訓練を地域の人と一緒に取り組むなど、意見をサービスに活かしている。</p>	
6 (11)	<p>市町との連携 事業所は、市町担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町と共にサービスの質の向上に取り組んでいる。</p>	<p>市担当課や地域包括支援センターへ出向き、報告や相談をし、助言を受けるなど連携を図っている。</p>	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取 組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 理念を実践する為の体制			
7 (16)	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている。	利用者一人ひとりの事業所での暮らしぶりを写真入の事業所だよりにして、預り金の明細や、担当者のコメントを添えて毎月送付している。電話や面会時にも伝えている。	
8 (18)	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させているとともに、相談や苦情を受け付ける窓口及び職員、第三者委員や外部機関を明示し、苦情処理の手続きを明確に定めている。	相談や苦情を受け付ける窓口、担当者、第三者委員、外部機関を明示し、苦情処理の手続きを定めている。電話や面会時等には意見、不満、苦情を聞くようにしているが、現状では寄せられていない。	
9 (20)	柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう夜間を含め必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている。	柔軟な対応ができるよう職員を確保し、勤務の調整に努めている。職員の急な休みのときには、勤務交代や管理者で対応している。	
10 (21)	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、変わる場合は利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。	異動や離職を必要最小限に抑える努力をしている。新任の職員には1ヶ月の重複勤務(夜勤2回)で、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。	
5. 人材の育成と支援			
11 (22)	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	近くの老人保健施設が実施している研修会に3ヶ月に1回参加している。毎月ミーティング後にテーマを決めて内部研修を行なっている。外部研修は勤務の一環として参加の機会を提供し、受講後は資料を提示し全職員で共有している。	
12 (24)	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。	市地域密着型サービス事業者連絡協議会に参加し、2ヶ月に1度会場持ち回りで行われる勉強会、見学会に出席し意見交換をして、サービスの質の向上に取り組んでいる。	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取 組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<p>. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援 1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</p>			
13 (31)	<p>馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している。</p>	<p>入居前に、自宅や施設を訪問し、本人や家族から話を聞いたり、見学してもらい他の利用者と一緒に飲みを飲んでもらうなどして、その場の雰囲気に馴染めるよう工夫している。</p>	
<p>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</p>			
14 (32)	<p>本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている。</p>	<p>食事の準備や食事、後片づけ、歌を歌ったり、談笑したり、利用者と一緒に過ごす中で、下ごしらえや味付け、岩国の煮物(大平)を教わるなど、お互いに支え合う関係を築いている。</p>	
<p>. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント 1. 一人ひとりの把握</p>			
15 (38)	<p>思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。</p>	<p>一人ひとりの思いや意向が出せるような言葉かけをし、把握に努めて介護記録に記録している。困難な場合は本人本位に検討している。</p>	
<p>2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</p>			
16 (41)	<p>チームで作る利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している。</p>	<p>ケア会議やミーティングを月1~2回行い、本人や家族、必要な関係者の意見を反映した介護計画を作成している。</p>	
17 (42)	<p>現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行なうとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している。</p>	<p>3ヶ月に1回、モニタリングを行い、6ヶ月に1回の見直しをする他、利用者の状況に変化が生じた場合は、本人、家族と話し合いの機会を持ち、現状に即した計画を作成している。</p>	
<p>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</p>			
18 (44)	<p>事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている。</p>	<p>受診の付き添い、買い物、自宅訪問などの外出支援など、本人や家族の要望に応じて柔軟に支援している。医療連携体制加算があり、利用者の健康管理等の支援をしている。</p>	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取 組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働			
19 (49)	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	協力医療機関をかかりつけ医としており、本人や家族の要望に応じて受診など適切な医療が受けられるよう支援している。母体施設の看護師が日常の健康管理や医療的相談に対応するなど支援している。	
20 (53)	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している。	重度化や終末期に向けた指針があり、契約時に家族に説明している。重度化した場合は、本人や家族、関係者と話し合い、方針を共有している。	
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 1. その人らしい暮らしの支援 (1) 一人ひとりの尊重			
21 (56)	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない。	マニュアルがあり、研修を行ない、全職員に周知徹底している。気になる言葉かけや対応があれば、職員同士で注意あっている。記録等の個人情報の取り扱いにも配慮している。	
22 (59)	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	一日の生活の流れは概ね決まっているが、日々、その時々で利用者に合わせた支援をしている。一人ひとりの希望やペースを大切に、その人らしい暮らしができるよう支援している。	
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
23 (61)	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	三食とも事業所で調理、準備、食事、後片づけなど利用者と一緒にやっている。職員と一緒に昼食を食べながら会話し、食事を楽しんでいる。	
24 (64)	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している。	入浴は、毎日13時から16時の間可能であり、一人ひとりの状態や希望、タイミングに合わせて、ゆっくり楽しめるよう支援している。入浴介助のマニュアルを作成し、職員間で共有して支援している。	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取 組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援			
25 (66)	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした活躍できる場面づくり、楽しみごと、気晴らしの支援をしている。	縫い物、読書、ちぎり絵、歌を歌ったり、食材を1階まで取りに行ったり、洗濯物を干したり、たたんだり、一人ひとりの楽しみごとや活躍できる場面づくりをし、張り合いや喜びのある日々が過ごせるよう支援している。	
26 (68)	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している。	散歩や買い物、季節の花見等、月1回はドライブに出かけるなど、一人ひとりの希望にそって支援している。	
(4) 安心と安全を支える支援			
27 (74)	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が、「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」及び言葉や薬による拘束(スピーチロックやドラッグロック)を正しく理解しており、抑制や拘束のないケアに取り組んでいる。	研修等で身体拘束による弊害を職員は理解しており、抑制や拘束のないケアに取り組んでいる。	
28 (75)	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる。	安全面から施錠していることもあるが、鍵をかけないケアについて職員で話し合っている。外出を察知したら、職員も一緒に出かけ散歩をするなどしている。	
29 (78)	事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる。	マニュアルを作成し、一人ひとりに応じた転倒事故予測を想定して、予防策を検討し、事故防止に取り組んでいる。事故報告書に記録し、改善策を話し合い職員で共有している。勉強会も行っている。	
30 (79)	急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている。	マニュアルを作成し、関係法人の医療機関の看護師等の指導を受けたり、勉強会を行っている。定期的な訓練までには至っていない。	・全職員に定期的な研修や訓練の実施
31 (81)	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている。	年2回の避難訓練や消防訓練を実施している。運営推進会議においてや、近所の人々にも働きかけをし、自治会長のアドバイスにより対処方法を考えるなど、地域の人と一緒に避難訓練にも取り組まれている。	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取 組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援			
32 (84)	服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めているとともに、必要な情報は医師や薬剤師にフィードバックしている。	個人ファイルに薬の情報(目的、副作用、用法、用量)を綴じて、職員は理解している。薬はその都度職員が口に入れるなど確実な服用を支援している。必要な情報は医師にフィードバックしている。	
33 (86)	口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力量に応じた支援をしているとともに、歯ブラシや義歯などの清掃、保管について支援している。	毎食後、一人ひとりの状態に合わせた口腔ケアの支援をしている。歯ブラシや義歯などの洗浄についても支援している。	
34 (87)	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	食事摂取量を記録し、1日30品目を目指して献立を立て、一日を通じて栄養バランスや水分量が確保できるよう支援している。きざみ食やおかゆ等一人ひとりの状態に応じた配慮をしている。	
35 (88)	感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)。	マニュアルがあり、手指消毒や手洗い、事業所内各所の消毒をするなど予防を実行している。	
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり (1) 居心地のよい環境づくり			
36 (91)	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮するとともに、生活感や季節感など五感に働きかける様々な刺激を採り入れて、居心地よく・能動的に過ごせるような工夫をしている。	季節の花が生けてあり、行事の写真や作品が飾られ、ソファでは利用者同士で会話を楽しんでいる。キッチンから調理の音や匂いがし生活感があり、居心地良く過ごせるよう工夫している。事業所内の温度や明るさは適度であり、換気にも配慮している。	
37 (93)	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	テーブルやテレビ、生活用品、写真等を持ち込み、居心地良く過ごせるよう工夫している。	

自己評価書

【ホームの概要】

事業所名	グループホーム あかしあ
所在地	山口県岩国市今津町1丁目10-9
電話番号	0827-30-0802
開設年月日	平成18年3月1日

【実施ユニットの概要】 (1月15日現在)

ユニットの名称	グループホームあかしあ 2F					
ユニットの定員	9 名					
ユニットの 利用者数		名	男性	名	女性	名
	要介護1		0	要介護4		1
	要介護2		5	要介護5		1
	要介護3		2	要支援2		
年齢構成	平均	84.2 歳	最低	75 歳	最高	99 歳

【自己評価の実施体制】

実施方法	各ユニットごとに自己評価票を基に各職員に対し面談を行い面談結果を集計。また、ユニットごとの集団での面談(カンファレンス)をおこなう。全ての集計結果を基に管理者、ユニットリーダー、施設主任とでより客観性を持った評価に近づくように協議をおこなう。
評価確定日	平成 年 月 日

【サービスの特徴】

(考え方) ご本人の生活スタイルを考慮し、ご自宅で生活されていた時と同じような感覚で安らぎと安心感のもてる環境づくりに努めています。また、グループホーム内での社会性は勿論のこと、地域での社会性も維持していただけるように努めています。(接し方) 基本的な考え方として、ご入居者様に対して敬いの心を持った形での接し方に心掛けるとともに、特別な接し方はせず、互いに「あかしあ」の住人としての良好な関係作りに努めています。職員は日々、ケア(認知症介護)の質の向上に努めるべく職員間でケアの見直しを行っています。また、入居者様に対しての「思い込みや押し付け」の無いケアを実施できるように意見交換・研修等、積極的に行っています。(体制) 日中の活動の充実が図れるとともに夜間の対応が円滑に行えるような人員配置(体制)の構築に日々努めています。また、入居者様の健康管理面におきましては、職員同士での観察力の強化と共通認識の徹底を心掛けるとともに、関係医療機関との医療連携の強化と看護師さんからの指導に基づいたケアの徹底に努めています。また、日常的な健康管理や緊急時の対応が円滑に実施できるように体制の整備をおこなっており常に双方の意識向上に繋がるよう努めています。(交流) ご家族等の訪問(面会)も多く、ご家族と職員の交流も充実しています。また、入居者様、ご家族、職員との参加のもと「家族会」を設け、より一層の交流を深めて行けるように努めています。また、地域での催し事等への参加も積極的に取り組んでいきたいと考えています。今後、地域交流の場を増やし介護情報等の提供スペースとしても機能していきたいと考えています。(特徴) 市内中心部という立地条件のため、日常生活上の利便性を活かした生活空間の場を提供するとともに訪問者にとっても訪れやすい環境です。特別な行事等は多くありませんが、日常生活を通しての生活機能訓練や四季を感じられ穏やかに暮らせる空間作りを目指しています。

項目		印 (取 組んでいき たい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営 1. 理念の共有			
1 (1)	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている。	重要事項説明書や、地域向けホーム便りに地域密着型サービスの理念として地域との交流地域と一体となったケアの提供などが盛り込まれている。	
2 (2)	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる。	職員全員が参加する会議や勉強会において、理念を確認しあい理念の実践に向けて取り組んでいる。	
3	運営理念の明示 管理者は、職員に対し、事業所の運営理念を明確に示している。	各ユニットの事務室の目に付く場所へ理念を提示している。	
4	運営者や管理者の取り組み 運営者や管理者は、それぞれの権限や責任を踏まえて、サービスの質の向上に向け、職員全員と共に熱意をもって取り組んでいる。	常に利用者の立場にたつよう心がけ、各々の職員がサービスの統一、意識統一が図れるように努力している。	
5	家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる。	運営推進会議等において当事業所の方向性や理念を理解してもらえよう努力している。	
2. 地域との支えあい			
6	隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄りたりしてもらえるような日常的な付き合いができるよう努めている。	近隣所の方と出会った際には必ず挨拶をし、時として立ち話等をするが、気軽に立ち寄りできるような環境とまではいかない。	
7 (3)	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。	地域の事業所として位置づけられるよう、地域向けのホーム便り、回覧ダイ・サービスを利用した生き生きサロンの実施に取り組んでいる。幼稚園児が来訪し利用者とのふれあいや、歌、日舞、フラダンスなどのボランティアとの交流もある。	
8	事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。	現状においてはできていない。	地域のいきいきサロンとして活用していただけよう同意している。

項目		印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 理念を実践するための制度の理解と活用			
9	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。	取り組んでいる。改善が必要と思われるところなど随時、取り組んでいくよう努力している。	
10 (5)	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービスに活かしている。	ご家族・地域の方や包括支援センターの職員さんなどを招き意見、要望等を聞き検討した後、サービスに活かせる様に努めている。	
11 (6)	市町との連携 事業所は、市町担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町と共にサービスの質の向上に取り組んでいる。	市担当の方に疑問点や改善すべきところなど細かく指導を頂サービスの質向上と運営の質向上に対して常に取り組んでいる。	
12	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用するよう支援している。	現在、権利擁護事業利用者さんが入居中の為、その都度利用の必要性や内容については、ある程度理解し必要性があれば活用できるよう支援している。	
13	虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	常に本人を主体とし利用者に対し対応面、行動面、共に配慮している。	
4. 理念を実践するための体制			
14	契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約したりする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	契約時に出来る限り内容の詳細を説明し、疑問に思われることや不安に思われることに対して、理解して頂けるように説明をおこなっている。	
15	運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	意見箱や苦情窓口を設け、あがって期や内容に対し実直に受けとめ対応し、職員一同共有している。	
16 (7)	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている。	2ヶ月に1回の推進会議、月1回発行のあかしあ通信にて近況等を報告している。	

項目			印(取 組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
17	情報開示要求への対応 利用者及び家族等からの情報開示の要求に応じて いる(開示情報の整理、開示の実務等)。	常時、閲覧できるようユニット入り口に設置している。		
18 (8)	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに 外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映さ せているとともに、相談や苦情を受け付ける窓口及び 職員、第三者委員や外部機関を明示し、苦情処理の 手続きを明確に定めている。	現状において不満、意見、苦情等がよせられていないが、今 後どの様なことが起こっても対応できるよう、ある程度マニユ アル化しており、手続きの流れを明確にしている。		
19	運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提 案を聞く機会を設け、反映させている。	1ヶ月に1階のミーティングの際に意見や提案を出し合っ てもらい常に報告を受けている。また、日常的に現場にて直接、 職員より意見や要望などを徴集し実行で来うる件に関しては 検討後実行に移すよう努めている。		
20 (9)	柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応が できるよう、夜間を含め必要な時間帯に職員を確保す るための話し合いや勤務の調整に努めている。	常に利用者に対し十分な対応が出来るよう職員調整をおこ なっている。また職員にも過度な負担がかからない様に職員 確保にも努めている。		
21 (10)	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支 援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に 抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージ を防ぐ配慮をしている。	できるだけ職員の移動等には配慮している。また離職など に関してもできるだけ最小限に抑えられるよう、職員一人ひと りの待遇面等を充実できるよう常に配慮していけるように努め ている。		
5. 人材の育成と支援				
22 (11)	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するた めの計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確 保や、働きながらトレーニングしていくことを進めてい る。	研修会等を行い職員育成に努めている。またマニュアルを作 成し実際の現場において基本的な事などについても育成し ている。		
23	職員配置への取り組み 多様な資質(年代、性別、経験等)をもった職員を配 置することにより、多様な利用者の暮らしに対応して いる。	常に考慮し多面的な対応ができるよに努めている。		
24 (12)	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する 機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問 等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取 組みをしている。	連絡協議会などの勉強会などに参加し開催事業所として見 学会、意見交換などを行い、共にサービスの質の向上に取り 組んでいる。		

項目			印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。	職員間とのコミュニケーションを常にとり、疑問や不安に思うことなどを上司に言いやすい環境を作っている。		
26	向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている。	お互いに何でもいえる環境作りに勤めると共に「報告・連絡・相談」の徹底に心掛けて状況状況把握等に努めている。またお互いの指導のもと、各自が向上心を持ち維持できるような環境の構築に努めている。		
27	職員の業務に対する適切な評価 運営者は、高い専門性やリスクを要求される管理者や職員の業務に対し、処遇等における適切な評価に努めている。	適切な評価が出来る様に努めているものの近ずけるように少しずつ改善している		
. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応				
28	初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている。	できるだけ職員の移動等には配慮している。また離職などに関してもできるだけ最小限に抑えられるよう、職員一人ひとりの待遇面等を充実できるよう常に配慮していけるように努めている。		
29	初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている。	入居前の事前調査を始めとし入居後においても、ご家族の訪問時に困りごと、不安ごと等を聴き出来るだけご家族の要望等に対応できるよう努めている。		
30	初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	初めての相談時に本人・ご家族の状況を把握しやみくもにグループホームをすすめるのではなく、その状況に応じたサービスの紹介等を行っている。		
31 (13)	馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している。	ご本人が安心して生活が送れるようにご家族ができるだけ関わられるような環境と提案をおこなうと共に、職員の関わりも常にもち、できるだけ早く他の入居者さん、その場の雰囲気にも馴染んでもらえるようにその人に合った工夫をおこなっている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
32 (14)	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている。	利用者さんが出来ることは出来るだけ行ってもらったり、職員と一緒に過ごしたり教わったりし、達成感等を共有している。		

項目			印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
33	本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。	常に家族との連携を図り、家事との会話のなかで見つけられる生活暦や習慣等を知ると共に介護者はそれらを把握しよりよい介護サービスが提供できるように心がけている。		
34	本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している。	家族が自由に訪問でき、居心地良く過ごせるような環境作りを心掛けている。		
35	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	本人に馴染みのある方や関係者、また本人が希望されれば訪れてみたい場所等、これまでの生活区域が損なわれないように支援できるよう心掛けている。		
36	利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている。	利用者同士が関わり合いがもてるように毎日皆でレクリエーションを行ったり、皆で参加できるような行事や場面を作っている。		
37	関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている。	利用者の医療依存度が高くなる等でグループホームでの継続的生活が困難になられた方とその家族にたいして、退去後の不安が回避できるように必ず他サービスへの移行とその後の経過等何かあれば相談できる体制を築けるよう心掛けている。		
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
38 (15)	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	利用者一人ひとりの思いを傾聴し常にコミュニケーションを図るように心掛け、何でも言える関係作りに努めている。		
39	これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	これまでの生活歴・生活習慣等を把握し、ご本人主体のサービス提供ができるようにつとめている		
40	暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている。	利用者一人ひとりのケア記録、申し送りノート、口頭での申し送りを徹底し出勤時には必ず目を通し分からないことや疑問に思う事については、その都度解決するように徹底している		

項目		印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し			
41 (16)	チームで作る利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している。	カンファレンス、モニタリングなどによりそれぞれが聴集した利用者の意見や要望、また職員の意見を出し合いできるだけ利用者の意向が盛り込まれた形で作成している	
42 (17)	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している。	定期的(3ヶ月)に1度モニタリングをおこない利用者の変化等が生じた場合には、本人・家族と話し合いの機会を持ち現状に即した計画を作成している。	
43	個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	ケア記録、申し送りノート、口頭での申し送り等を利用し、情報共有し見直しや気づき等があった際には、その都度話し合いを持つようにしている。	
3. 多機能性を活かした柔軟な支援			
44 (18)	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている。	主治医や医療連携機関、地域の中での書く連携機関と連絡調整を行い利用者や家族とも良く相談しながら支援するように心掛けてている。	
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働			
45	地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している。	民生委員さん、自治会長さんなどから情報をいただき、あかしあ通信を地域に回覧したりボランティアさんの協力などでもしていただき支援している	
46	事業所の地域への開放 事業所の機能を、利用者のケアに配慮しつつ地域に開放している(認知症の理解や関わり方についての相談対応・教室の開催、家族・ボランティア等の見学・研修の受け入れ等)。	地域のいきいきサロンなどとしての提供もおこなう予定である。最近ではホーム便りの回覧をすることによって認知度が高まり、見学も多数来られ近隣の方からの申し込みも増えている。	
47	他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他の介護支援専門員やサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている。	現状ではない	

項目		印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
48	地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している。		
49 (19)	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。		
50	認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している。		
51	看護職との協働 利用者をよく知る看護職員(母体施設の看護師等)あるいは地域の看護職(かかりつけ医の看護職、保健センターの保険師等)と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。		
52	早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している。		
53 (20)	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している。		
54	重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医等とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。		
55	住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている		

項目		印(取 組んでいき たい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<p>その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 1. その人らしい暮らしの支援 (1) 一人ひとりの尊重</p>			
56 (21)	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない。	入居者の自尊心を傷つけないように職員の行動、言葉かけに配慮し、施設物等の個人情報の取り扱いにも注意している。またマニュアルを作成し全職員に対し研修を行い、周知徹底を心かけている。	
57	利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている。	職員側の決まりや都合で業務を進めていくのではなく入居者が自分の思いやペースを保ちながらじゆうに暮らせるよう努力している。	
58	“できる力”を大切にされた家事への支援 家事(調理、配膳、掃除、洗濯、持ち物の整理や補充、日用品や好みの物などの買い物等)は、利用者の“できる力”を大切にしながら支援している。	野菜の皮むきや食事作り、洗濯物干し等、個別や共同の作業をしていただきできる力を活かしてもらっている。	
59 (22)	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	入居者の個別の趣味や職歴、特技等を活かせるように配慮しその人らしい日々が送れるように支援している。職員はその人のペースに合わせ、一緒に時間を共有するよう心かけている。	
60	身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。	美容師がホームに来られるので、ほとんどの利用者が利用しているが地域の理美容院を希望する人に対してはそのように対応している。	
61 (23)	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	入居者の状態に合わせての調理方法や盛り付けなどに配慮し入居者と職員と一緒に調理、準備、食事、片づけをしている。	
62	本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて、日常的に楽しめるよう支援している。	入居時にある程度嗜好を確認し食事に反映させている。	
63	気持ちのよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している。	入居者個々の排泄パターンを把握し、適切な声かけや誘導でトイレでの排泄が行えるように支援している。また職員間でオムツの弊害について再確認するよう心がけている。排泄介助についてのマニュアルを作成し職員間で共有している。	

項目			印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
64 (24)	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している。	体調を考慮した上で毎日入浴出来る様に支援している。また、入居者の希望に応じた形での入浴に対しても支援している。入浴介助についてのマニュアルを作成し職員間で共有している。		
65	安眠休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり、眠れるよう支援している。	日中の活動性を高め、夜間は良眠できるように支援している。		
まにゆ				
66 (25)	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした活躍できる場面づくり、楽しみごと、気晴らしの支援をしている。	皆で参加できるような行事や場を作るなど雰囲気や各個人が活躍できる場面や雰囲気作りに努めている。		
67	お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や状態に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	家族の希望により、ホームにて一括管理をおこなっている。買い物外食などの機会はあるが、支払いは職員が行っている。		
68 (26)	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している。	公園への散歩や季節に応じた外出をし、系列施設で行われている地域行事にも参加しできるだけホームに閉じこもらない生活を支援できるように心かけている。		
69	普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している。	定期的に外出企画を図り、職員と共に外出する機会をもうけている。		
70	電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	電話をかけた、定期的に入居者から家族に対して手紙やはがきを書いてもらっている。		
71	家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している。	家族や知人等が自由に訪問でき、居心地良く過ごせるような雰囲気を作っている。		
72	家族の付き添いへの支援 利用者や家族が家族の付き添いを希望したときは、居室への宿泊も含め適切に対応している。	現在宿泊希望はないが、希望に応じ対応できるように心かけている。		

項目			印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
73	家族が参加しやすい行事の実践 年間の行事計画の中に、家族が参加しやすい行事を取り入れ、家族の参加を呼びかけている。	家族会は勿論の事、芋ほり、外食、夏祭りなど家族の参加を促し、気楽に参加し皆様が交流できるような環境づくりをしている。		
(4)安心と安全を支える支援				
74 (27)	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」及び言葉や薬による拘束(スピーチロックやドラッグロック)を正しく理解しており、抑制や拘束のないケアに取り組んでいる。	身体拘束については、研修を行う等し理解している。		
75 (28)	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる。	ユニットから一步出るとすぐにエレベーターや階段に繋がっている為、目が届かない時に安全を考慮して施錠している。外出の希望がある際は職員と共に気分転換も兼ね散歩に出掛けている。		・鍵をかけないケアの工夫
76	利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している。	特に把握の必要な利用者さんもおられるので常時所在、様子、安全確認には配慮している。		
77	注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている。	異食などの問題行動のある利用者さんがおられるので事故を未然に防止するために、職員が預かり、管理をしている。		
78 (29)	事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる。	一人ひとりに応じた転倒事故予測を想定したり予防策を考えたりし常に安全に安心して暮らせるように配慮している。また起こりうるであろう事故等も勉強会などを行い、事故防止等に努めている。		
79 (30)	急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、すべての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている。	各種マニュアルを整備するとともに、関係法人の医療機関の看護師等の指導を受けたり勉強会等を行い事故防止等に努めている。		
80	再発防止への取り組み 緊急事態が発生した場合や、発生の可能性が見られた時には、事故報告書や”ヒヤリはっと報告書”等をまとめるとともに、発生防止のための改善策を講じている。	事故報告書を記入し、事故防止のための改善策を講じ職員相互で共有している。		

項目			印(取 組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
81 (31)	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている。	家族や自治会長さんなどのアドバイスによりそのときに応じた地域性も考え合わせた対処ができるようにいろんな方法を考えている。		
82	リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている。	常時家族との連携をとり一人ひとりに応じたリスクを説明し、最善策を考え安全に快適に暮らしていただけるよう話し合っている。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
83	体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている。	入居者一人ひとりのカードックスや申し送りノート等、記録内容が工夫され常に職員間での連携を図っており利用者の変化が生じた場合、連携医療機関へ情報提供し適切な処置がおこなえるように努めている。		
84 (32)	服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めているとともに、必要な情報は医師や薬剤師にフィードバックしている。	看護師がいないので職員一人ひとりが薬のことを理解し、間違いのないように確実にチェックを入れ支援している。医師に相談や報告をすることで悪化防止や健康状態維持に努めている。		
85	便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる。	一人ひとりに合ったコントロールで便秘対策をしている。予防策としてメニューに取り入れたり、水分補給や運動などでも解消するように努めている。		
86 (33)	口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしているとともに、歯ブラシや義歯などの清掃、保管について支援している。	昼食後は声掛け程度であるが、自力で口腔洗浄が困難な利用者に対しては職員が行っている。朝、夕に関しては口腔洗浄や義歯洗浄等を行っている。		
87 (34)	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	1日30品目を目指し栄養や塩分カロリーなども考慮し一人ひとりに応じた状態や形態で提供し1日の水分摂取量、栄養バランスを考え、目標量が確保できるよう支援している。		
88 (35)	感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)。	感染予防のマニュアルを作成しその都度、予防対策を講じている。また、インフルエンザにおいては家族に了承をいただき予防接種を行っている。		
89	食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている。	職員全員が衛生管理を徹底し、予防のために調理時間や方法を確認しあい提供できるよう管理している。又食材に関しては、鮮度を重視するとともに温度管理・賞味期限においても、最善の注意を払っている。		

項目		印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<p>2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり (1) 居心地のよい環境づくり</p>			
90	<p>安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている。</p>	<p>影響のない時間(帰宅願望)などは開放的に開けて、閉塞感が生まれにくいような雰囲気をつくっている。</p>	
91 (36)	<p>居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮するとともに、生活感や季節感など五感に働きかける様々な刺激を採り入れて、居心地よく・能動的に過ごせるような工夫をしている。</p>	<p>共同生活していくうえで、楽しく過ごしていただくために季節感などの演出により、居心地良く利用者さんに我が家のように過ごしていただけるよう心掛けている。</p>	
92	<p>共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。</p>	<p>グループホームとして共同生活を送っていく中にも個性を重んじた居室作り(快適に居心地良く過ごしていただける空間)を確保していただくようにしている。</p>	
93 (37)	<p>居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。</p>	<p>個性を大切にせず否定的にならず思いのまま過ごしていただけるようにしている。</p>	
94	<p>換気・空調の配慮 気になるにおいや空気よどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている。</p>	<p>外気との差を極端にせず年中安定した空間で過ごしていただけるよう空調を調整している。</p>	
<p>(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり</p>			
95	<p>身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送ることができるように工夫している。</p>	<p>浴槽、便座、流し台等は、必要に応じ自助具を取り付け、要所所に滑り止めや手すりの設置等、利用者が使いやすい様に工夫している。</p>	
96	<p>わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している。</p>	<p>常に職員は利用者の行動を見守り、混乱や失敗を防ぐよう、さり気なく声掛けや誘導をおこなって出来る事は自分でして頂けるように努めている。</p>	
97	<p>建物の外周リや空間の活用 建物の外周リやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている。</p>	<p>生活の中に環境を取り入れ、地域性(中心地)であるメリットを出来るだけ活用するようにしている。</p>	

項目		取り組みの成果 (該当する箇所を 印で囲むこと)	
. サービスの成果に関する項目			
98	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。	<input type="radio"/> ほぼ全ての利用者の 利用者の1 / 3 くらいの	利用者の2 / 3 くらいの ほとんど掴んでいない
99	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある。	<input type="radio"/> 毎日ある たまにある	数日に1回程度ある ほとんどない
100	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。	<input type="radio"/> ほぼ全ての利用者が 利用者の1 / 3 くらいが	利用者の2 / 3 くらいが ほとんどいない
101	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿が見られている。	<input type="radio"/> ほぼ全ての利用者が 利用者の1 / 3 くらいが	利用者の2 / 3 くらいが ほとんどいない
102	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。	<input type="radio"/> ほぼ全ての利用者が 利用者の1 / 3 くらいが	利用者の2 / 3 くらいが ほとんどいない
103	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。	<input type="radio"/> ほぼ全ての利用者が 利用者の1 / 3 くらいが	利用者の2 / 3 くらいが ほとんどいない
104	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。	<input type="radio"/> ほぼ全ての利用者が 利用者の1 / 3 くらいが	利用者の2 / 3 くらいが ほとんどいない
105	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。	ほぼ全ての家族等と 家族の1 / 3 くらいと	<input type="radio"/> 家族の2 / 3 くらいと ほとんどできていない
106	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。	ほぼ毎日のように <input type="radio"/> たまに	数日に1回程度 ほとんどない
107	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている。	大いに増えている あまり増えていない	<input type="radio"/> 少しずつ増えている 全くいない
108	職員は、生き活きと働けている。	ほぼ全ての職員が 職員の1 / 3 くらいが	<input type="radio"/> 職員の2 / 3 くらいが ほとんどいない
109	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	ほぼ全ての利用者が 利用者の1 / 3 くらいが	<input type="radio"/> 利用者の2 / 3 くらいが ほとんどいない
110	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	ほぼ全ての家族等が 家族等の1 / 3 くらいが	<input type="radio"/> 家族等の2 / 3 くらいが ほとんどできていない

自己評価書

【ホームの概要】

事業所名	グループホーム あかしあ
所在地	山口県岩国市今津町1丁目10-9
電話番号	0827-30-0802
開設年月日	平成18年3月1日

【実施ユニットの概要】 (1月25日現在)

ユニットの名称	グループホームあかしあ 3F				
ユニットの定員	9名				
ユニットの利用者数	名	男性	名	女性	名
	要介護1	4	要介護4	1	
	要介護2	3	要介護5		
	要介護3	1	要支援2		
年齢構成	平均 84.2 歳	最低 75 歳	最高 99 歳		

【自己評価の実施体制】

実施方法	各ユニットごとに自己評価票を基に各職員に対し面談を行い面談結果を集計。また、ユニットごとの集団での面談(カンファレンス)をおこなう。全ての集計結果を基に管理者、ユニットリーダー、施設主任とでより客観性を持った評価に近づくように協議をおこなう。
評価確定日	平成 年 月 日

【サービスの特徴】

(考え方) ご本人の生活スタイルを考慮し、ご自宅で生活されていた時と同じような感覚で安らぎと安心感のもてる環境づくりに努めています。また、グループホーム内での社会性は勿論のこと、地域での社会性も維持していただけるように努めています。(接し方) 基本的な考え方として、ご入居者様に対して敬いの心を持った形での接し方に心掛けるとともに、特別な接し方はせず、互いに「あかしあ」の住人としての良好な関係作りに努めています。職員は日々、ケア(認知症介護)の質の向上に努めるべく職員間でケアの見直しを行っています。また、入居者様に対しての「思い込みや押し付け」の無いケアを実施できるように意見交換・研修等、積極的に行っています。(体制) 日中の活動の充実が図れるとともに夜間の対応が円滑に行えるような人員配置(体制)の構築に日々努めています。また、入居者様の健康管理面におきましては、職員同士での観察力の強化と共通認識の徹底を心掛けるとともに、関係医療機関との医療連携の強化と看護師さんからの指導に基づいたケアの徹底に努めています。また、日常的な健康管理や緊急時の対応が円滑に実施できるように体制の整備をおこなっており常に双方の意識向上に繋がるよう努めています。(交流) ご家族等の訪問(面会)も多く、ご家族と職員の交流も充実しています。また、入居者様、ご家族、職員との参加のもと「家族会」を設け、より一層の交流を深めて行けるように努めています。また、地域での催し事等への参加も積極的に取り組んでいきたいと考えています。今後、地域交流の場を増やし介護情報等の提供スペースとしても機能していきたいと考えています。(特徴) 市内中心部という立地条件のため、日常生活上の利便性を活かした生活空間の場を提供するとともに訪問者にとっても訪れやすい環境です。特別な行事等は多くありませんが、日常生活を通しての生活機能訓練や四季を感じられ穏やかに暮らせる空間作りを目指しています。

自己評価票

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印、(取 組んでいき たい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<p>理念に基づく運営</p> <p>1. 理念の共有</p>			
1 (1)	<p>地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている。</p>		重要事項説明書や、地域向けホーム便りに地域密着型サービスの理念として地域との交流地域と一体となったケアの提供などが盛り込まれている。
2 (2)	<p>理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる。</p>		職員全員が参加する会議や勉強会において、理念を確認しあい理念の実践に向けて取り組んでいる。
3	<p>運営理念の明示 管理者は、職員に対し、事業所の運営理念を明確に示している。</p>		各ユニットの事務室の目に付く場所へ理念を提示している。
4	<p>運営者や管理者の取り組み 運営者や管理者は、それぞれの権限や責任を踏まえて、サービスの質の向上に向け、職員全員と共に熱意をもって取り組んでいる。</p>		常に利用者の立場にたつよう心がけ、各々の職員がサービスの統一、意識統一が図れるように努力している。
5	<p>家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる。</p>		運営推進会議等において当事業所の方向性や理念を理解してもらえるよう努力している。
<p>2. 地域との支えあい</p>			
6	<p>隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄りたりしてもらえるような日常的な付き合いができるよう努めている。</p>		近隣所の方と出会った際には必ず挨拶をし、時として立ち話等をするが、気軽に立ち寄れるような環境とまではいかない。
7 (3)	<p>地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。</p>		地域の事業所として位置つけられるよう、地域向けのホーム便り、回覧ダイサービスを利用した生き生きサロンの実施に取り組んでいる。幼稚園児が来訪し利用者とのふれあいや、歌、日舞、フラダンスなどのボランティアとの交流もある。
8	<p>事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。</p>		現状においてはできていない。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 理念を実践するための制度の理解と活用			
9	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。	取り組んでいる。改善が必要と思われるところなど随時、取り組んでいくよう努力している。	
10 (5)	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービスに活かしている。	ご家族・地域の方や包括支援センターの職員さんなどを招き意見、要望等を聞き検討した後、サービスに活かせる様に努めている。	
11 (6)	市町との連携 事業所は、市町担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町と共にサービスの質の向上に取り組んでいる。	市担当の方に疑問点や改善すべきところなど細かく指導を頂サービスの質向上と運営の質向上に対して常に取り組んでいる。	
12	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用するよう支援している。	現在、権利擁護事業利用者さんが入居中の為、その都度利用の必要性や内容については、ある程度理解し必要性があれば活用出来るよう支援している。	
13	虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	常に本人を主体とし利用者に対し対応面、行動面、共に配慮している。	
4. 理念を実践するための体制			
14	契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約したりする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	契約時に出来る限り内容の詳細を説明し、疑問に思われることや不安に思われることに対して、理解して頂けるように説明をおこなっている。	
15	運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	意見箱や苦情窓口を設け、あがって期や内容に対し実直に受けとめ対応し、職員一同共有している。	
16 (7)	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている。	2ヶ月に1回の推進会議、月1回発行の「あかしあ通信」にて近況等を報告している。	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
17	<p>情報開示要求への対応 利用者及び家族等からの情報開示の要求に応じている(開示情報の整理、開示の実務等)。</p>		
18 (8)	<p>運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させているとともに、相談や苦情を受け付ける窓口及び職員、第三者委員や外部機関を明示し、苦情処理の手続きを明確に定めている。</p>		
19	<p>運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。</p>		
20 (9)	<p>柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、夜間を含め必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている。</p>		
21 (10)	<p>職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。</p>		
22 (11)	<p>職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。</p>		
23	<p>職員配置への取り組み 多様な資質(年代、性別、経験等)をもった職員を配置することにより、多様な利用者の暮らしに対応している。</p>		
24 (12)	<p>同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。		
26	向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている。		
27	職員の業務に対する適切な評価 運営者は、高い専門性やリスクを要求される管理者や職員の業務に対し、処遇等における適切な評価に努めている。		
. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援 1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
28	初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている。		
29	初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている。		
30	初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。		
31 (13)	馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援			
32 (14)	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
33	本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。	常に家族との連携を図り、家事との会話の中で見つけられる生活歴や生活習慣等を知ると共に介護者は、それらを把握しより良い介護サービスが提供できるように心掛けている。		
34	本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している。	本人に馴染みのある方や関係者、また本人が希望されれば訪れてみたい場所等、これまでの生活区域が損なわれないように支援できるよう心掛けている。		
35	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	本人に馴染みのある方や関係者、また本人が希望されれば訪れてみたい場所等、これまでの生活区域が損なわれないように支援できるよう心掛けている。		
36	利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている。	利用者同士が関わり合いが持てるように毎日、集団レクリエーションを行ったり皆で参加できるような行事や場面を作っている。		
37	関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている。	利用者の医療依存度が高くなる等でグループホームでの継続的生活が困難になられた方とその家族に対して、退去後の不安が回避できるように必ず他サービスへの移行とその後の経過等、何かあれば相談できる体制を築けるよう心掛けている。		
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント 1. 一人ひとりの把握				
38 (15)	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	利用者一人ひとりの思い等を傾聴し、常にコミュニケーションを図るように心掛け何でも言える関係作りに努めている。		
39	これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	これまでの生活歴、生活習慣等を把握し、ご本人主体のサービス提供ができるように努めている。		
40	暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている。	利用者一人ひとりのケア記録、申し送りノート、口頭での申し送りを徹底し、出勤時には必ず目を通し分からない事や疑問に思う事についてはその都度、解消するように徹底している。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し			
41 (16)	チームで作る利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している。	カンファレンス、ケース会議を開催し、それぞれが聴集した利用者の意見や要望、また職員の意見を出し合い出来るだけ利用者の意向が盛り込まれた形で作成している。	
42 (17)	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している。	定期的(6ヶ月に1回)にモニタリングを行い利用者の変化等が生じた場合には本人、家族等と話し合いの機会を持ち現状に即した計画を作成している。	
43	個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	ケア記録、申し送りノート、口頭での申し送り等を利用し、情報共有し見直しや気づき等があった際にはその都度、話し合いの機会を持つようにしている。	
3. 多機能性を活かした柔軟な支援			
44 (18)	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている。	主治医や医療連携機関、地域の中での各連携機関と連絡調整をおこない、利用者や家族とも良く相談しながら支援するように心掛けている。	
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働			
45	地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している。	ホーム全体でボランティア企画を考え、不定期ではあるが催しを開催している。また防災訓練等、消防の協力にておこなっている。	
46	事業所の地域への開放 事業所の機能を、利用者のケアに配慮しつつ地域に開放している(認知症の理解や関わり方についての相談対応・教室の開催、家族・ボランティア等の見学・研修の受け入れ等)。	不定期ではあるが家族会等の見学などの受け入れをおこなっている。	
47	他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他の介護支援専門員やサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている。	現状ではない。	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取 組んでいき たい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
48	地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している。		
49 (19)	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。		
50	認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している。		
51	看護職との協働 利用者をよく知る看護職員(母体施設の看護師等)あるいは地域の看護職(かかりつけ医の看護職、保健センターの保険師等)と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。		
52	早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している。		
53 (20)	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している。		
54	重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医等とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。		
55	住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<p>その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</p> <p>1. その人らしい暮らしの支援</p> <p>(1) 一人ひとりの尊重</p>			
56 (21)	<p>プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない。</p>	<p>利用者の自尊心を傷つけないように職員の行動、言葉かけに配慮し、記録物等の個人情報の取り扱いにも注意している。また、マニュアルを作成し全職員に対し研修等をおこない周知徹底を心掛けている。</p>	
57	<p>利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている。</p>	<p>職員側の決まりや都合で業務を進めていく態度ではなく入居者が自分の思いやペースを保ちながら自由に暮らせるように努力している。</p>	
58	<p>“できる力”を大切にされた家事への支援</p> <p>家事(調理、配膳、掃除、洗濯、持ち物の整理や補充、日用品や好みの物などの買い物等)は、利用者の“できる力”を大切にしながら支援している。</p>	<p>食事作りや下膳、洗濯干し等、個別や共同の作業をして頂きできる力を活かしてもらっている。</p>	
59 (22)	<p>日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。</p>	<p>利用者の個別の趣味や職歴、特技等を活かせるように配慮し、その人らしい日々が送れるように支援している。職員はその人のペースに合わせて一緒に時間を共有するように心掛けている。</p>	
<p>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</p>			
60	<p>身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。</p>	<p>美容師がホームへ来られるので、殆どの利用者が利用しているが地域の理美容院を希望する人に対しては対応していくように心掛けている。また御自分で化粧できない方に対しては職員が援助している。</p>	
61 (23)	<p>食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。</p>	<p>利用者の状態に合わせての調理方法や盛り付けなどに配慮し、利用者と職員と一緒に調理、準備、食事、片付けをしている。</p>	
62	<p>本人の嗜好の支援</p> <p>本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて、日常的に楽しめるよう支援している。</p>	<p>入居時にある程度の嗜好を確認し食事に反映させている。またメニュー作りの際食べたい物を聞き取り入れている。</p>	
63	<p>気持ちのよい排泄の支援</p> <p>排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している。</p>	<p>利用者個々の排泄パターンを把握し、適切な声掛けや誘導でトイレでの排泄がおこなえるように支援している。また、職員間でオムツの弊害について再認識するように心掛けている。排泄介助についてのマニュアルを作成し職員間で共有している。</p>	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
64 (24)	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している。		
65	安眠休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり、眠れるよう支援している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援			
66 (25)	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした活躍できる場面づくり、楽しみごと、気晴らしの支援をしている。		
67	お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や状態に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。		
68 (26)	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している。		
69	普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している。		
70	電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。		
71	家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している。		
72	家族の付き添いへの支援 利用者や家族が家族の付き添いを希望したときは、居室への宿泊も含め適切に対応している。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
73	家族が参加しやすい行事の実践 年間の行事計画の中に、家族が参加しやすい行事を取り入れ、家族の参加を呼びかけている。		
(4)安心と安全を支える支援			
74 (27)	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」及び言葉や薬による拘束(スピーチロックやドラッグロック)を正しく理解しており、抑制や拘束のないケアに取り組んでいる。		
75 (28)	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる。		・鍵をかけないケアの工夫
76	利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している。		
77	注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている。		
78 (29)	事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる。		
79 (30)	急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている。		
80	再発防止への取り組み 緊急事態が発生した場合や、発生の可能性が見られた時には、事故報告書や”ヒヤリはっと報告書”等をまとめるとともに、発生防止のための改善策を講じている。		事故報告書を記入し、事故防止のための改善策を講じ職員相互で共有している。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
81 (31)	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている。		
82	リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援			
83	体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている。		
84 (32)	服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めているとともに、必要な情報は医師や薬剤師にフィードバックしている。		
85	便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる。		
86 (33)	口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしているとともに、歯ブラシや義歯などの清掃、保管について支援している。		
87 (34)	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。		
88 (35)	感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)。		
89	食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり (1) 居心地のよい環境づくり			
90	安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている。	目が届かない時は、安全を考慮して施錠している。	・鍵をかけないケアの工夫
91 (36)	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮するとともに、生活感や季節感など五感に働きかける様々な刺激を採り入れて、居心地よく・能動的に過ごせるような工夫をしている。	共用空間は窓が広く明るい。ソファやテレビ、観葉植物や利用者作成の季節に応じた貼り絵カレンダーなど掲示することにより季節感等を感じてもらっている。音の大きさ、明るさ、などにも注意をはらうよう努めている。	
92	共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	入居者一人ひとりの居室を設けており、ゆったり過ごしていただいたり、食堂に設置してあるソファにて利用者同士で談笑され楽しい時間を過ごされている。	
93 (37)	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	ベッド、タンス、椅子、電気スタンドはホーム備え付けであるが、テーブルやテレビ、洋服掛けを持ち込まれ好みに応じた部屋作り、本人が作成した作品を飾る等、居心地良く過ごせるように工夫している。	
94	換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のだよみがないう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている。	毎朝、窓を開け細まめに換気を行うと共に各居室に設置してある換気扇を利用し臭いや空気のだよみが無い様に努めている。また、心地良い室温の設定に注意している。	
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり			
95	身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送ることができるように工夫している。	浴槽、便座、流し台等は、必要に応じ自助具を取り付け、要所所に滑り止めや手すりの設置等、利用者が使いやすい様に工夫している。	
96	わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している。	常に職員は利用者の行動を見守り、混乱や失敗を防ぐよう、さり気なく声掛けや誘導をおこなって出来る事は自分でして頂けるように努めている。	
97	建物の外周や空間の活用 建物の外周やベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている。	暖かい季節には屋上のプランターへ水やりをしに行ったり、職員と共に洗濯物を干しに行く等の活用をしている。	

項目		取り組みの成果 (該当する箇所を 印で囲むこと)	
. サービスの成果に関する項目			
98	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。	<input type="radio"/> ほぼ全ての利用者の <input type="radio"/> 利用者の1 / 3 くらいの	利用者の2 / 3 くらいの ほとんど掴んでいない
99	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある。	<input type="radio"/> 毎日ある <input type="radio"/> たまにある	数日に1回程度ある ほとんどない
100	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。	<input type="radio"/> ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 利用者の1 / 3 くらいが	利用者の2 / 3 くらいが ほとんどいない
101	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿が見られている。	<input type="radio"/> ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 利用者の1 / 3 くらいが	利用者の2 / 3 くらいが ほとんどいない
102	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。	<input type="radio"/> ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 利用者の1 / 3 くらいが	利用者の2 / 3 くらいが ほとんどいない
103	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。	<input type="radio"/> ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 利用者の1 / 3 くらいが	利用者の2 / 3 くらいが ほとんどいない
104	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。	<input type="radio"/> ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 利用者の1 / 3 くらいが	利用者の2 / 3 くらいが ほとんどいない
105	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。	<input type="radio"/> ほぼ全ての家族等と <input type="radio"/> 家族の1 / 3 くらいと	家族の2 / 3 くらいと ほとんどできていない
106	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。	<input type="radio"/> ほぼ毎日のように <input type="radio"/> たまに	数日に1回程度 ほとんどない
107	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている。	<input type="radio"/> 大いに増えている <input type="radio"/> あまり増えていない	<input type="radio"/> 少しずつ増えている <input type="radio"/> 全くいない
108	職員は、生き活きと働けている。	<input type="radio"/> ほぼ全ての職員が <input type="radio"/> 職員の1 / 3 くらいが	<input type="radio"/> 職員の2 / 3 くらいが <input type="radio"/> ほとんどいない
109	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	<input type="radio"/> ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 利用者の1 / 3 くらいが	<input type="radio"/> 利用者の2 / 3 くらいが <input type="radio"/> ほとんどいない
110	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	<input type="radio"/> ほぼ全ての家族等が <input type="radio"/> 家族等の1 / 3 くらいが	<input type="radio"/> 家族等の2 / 3 くらいが <input type="radio"/> ほとんどできていない